

4.6 散布绿化工法による木本植物の導入

1. 試験担当者

本場防災部治山第二研究室長 岩川 誠夫 ほか

2. 試験目的

現在行なわれつつあるヘリコプターなどによる散布绿化工では、緑被構成が特定の草本類にかたまり、治山効果のかたい木本植物の成立がよく削されて問題となる。このため侵食防止効果のかたい緑被をすみやかに形成するとともに治山本来のねらいである木本植物の成立を、早期に省力的に達成する方法を研究する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

1. 長野営林局中川治山事業所管内（凍土花崗岩地帯）に試験予定地を選定し概況を調査した。
2. 場内に、土壤別、植物の生育タイプ別に実験プロットを設定し、播種量、混播割合をかえて種間の競合状態を調査した。
3. 初期成長の早いタイプの木本は、混播量をかえることによって、草本との競合にたえて、十分成立することが認められる。
4. 実験結果に基盤をおいて、現地試験工の仕様を決定した。

4. 昭和45年度の試験計画

1. 44年度に選定した中川治山事業所管内の試験予定地に、木本と草本を生育タイプ別に組合せ、播種量、混播量をかえた処理方法による試験区を設置する。
2. 施工後の経過調査と時期別に調査する。
3. 初期成長の遅い木本については、場内の実験プロットによって、草木の生育タイプ別との競合および成長促進方法について検討する。
4. 長野または東京営林局管内の凍土第三、四紀層地帯を対象に、試験予定地を選定し概要を調査する。